

平成29年度WAM助成フォーラム
事業継続・自立化に向けた事業運営のヒント

資金調達の取り組み

2017年9月26日

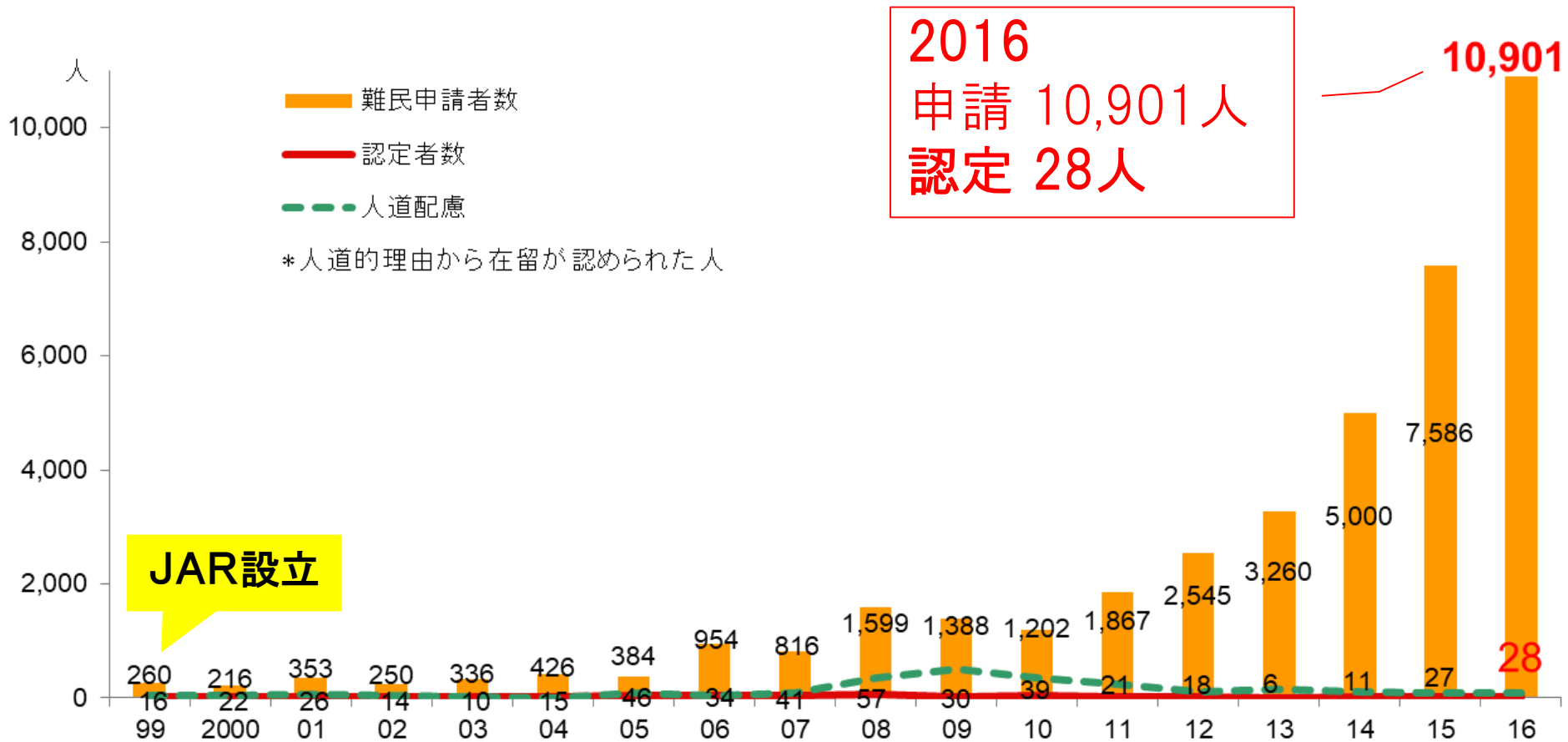
認定NPO法人 難民支援協会
広報部 コーディネーター 田中志穂



難民支援協会(JAR)について

—活動背景、目的、組織体制—

難民申請数が増える一方、 引き続き少ない認定数



難民が新たな土地で安心して暮らせるよう支え、
ともに生きられる社会の実現に
取り組んでいます。



組織概要

- 設立 1999年
- 職員 25人（非専従職員含む）
- インターン 約30人
- 活動実績 * 2015年実績
 - ✓来訪者 680人/年、66カ国
 - ✓相談件数 3,606件
- 受賞歴
 - 沖縄平和賞
 - 地球市民賞（国際交流基金）
 - 東京弁護士会人権賞ほか

WAM助成による事業の成果

- 難民申請者の貧困対応
 - ✓生活相談、シェルター提供、医療機関へのアクセス確保など
- 包括的支援体制の構築
 - ✓首都圏外の団体と難民支援ネットワーク構築
 - ✓弁護士事務所との連携など資源の開拓

資金調達の観点でのSWOT分析



内部環境

強み

- 難民業界のオピニオンリーダーを取れる位置にいる
- 難民にとって不可欠な存在（代替がない・少ない）
- 競合が少ない

弱み

- 課題解決アプローチができていない/見せていない
- 説得力ある内部分析、素材準備が不十分



外部環境

機会

- 引き続き、難民は国際的な課題として注目される
- 移民政策実現の可能性
- 東京オリンピックによる人権意識の向上？

脅威

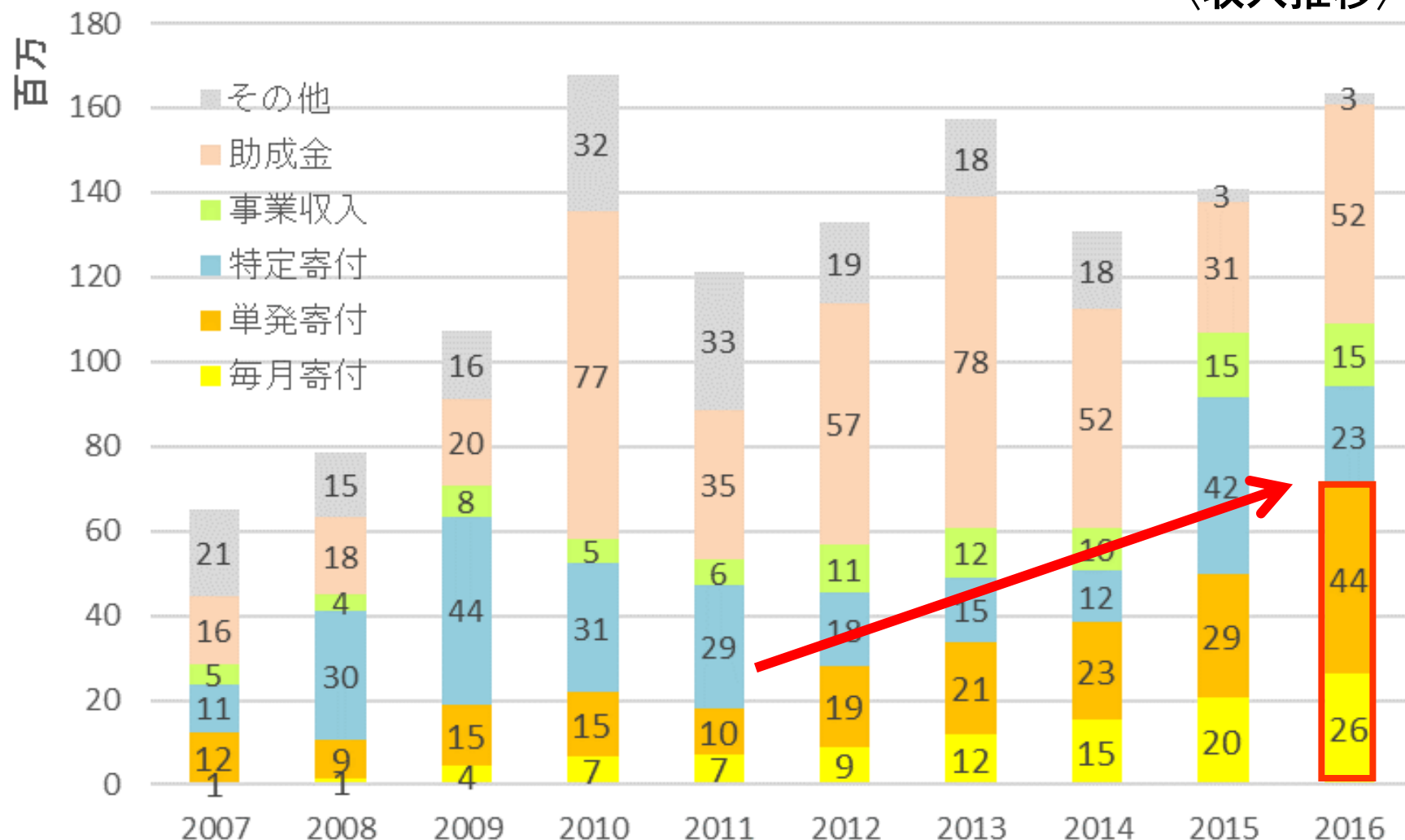
- オリンピックによる取り締まり強化
- 難民の問題化、外国人排斥（偽装難民、テロ、ヘイトetc）

外国人分野では大きな強みがある。
ここ数年、脅威の影響が高まっている。

難民支援協会(JAR)の 収入推移

助成金頼りから 一般寄付拡大に向けて注力

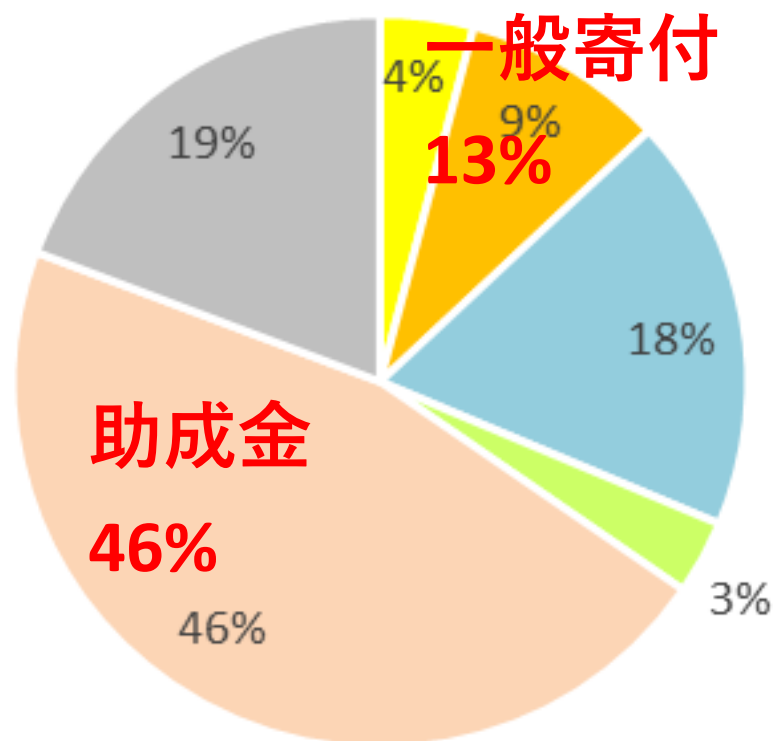
〈収入推移〉



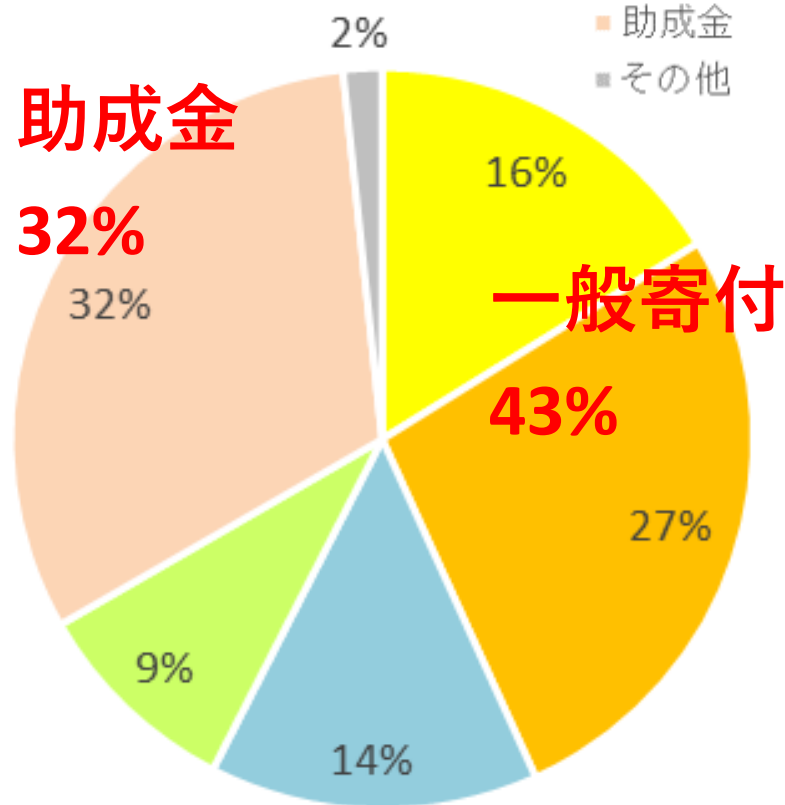
▶ WAM助成 (万円) 400 772 1,860 2,550 2,840 1,980 1,600

寄付を中心に収入バランスを修正 助成金も補完的に活用

- 毎月寄付
- 単発寄付
- 特定寄付
- 事業収入
- 助成金
- その他



2010年 WAM初年度



2016年

資金調達における 助成金活用の成果

目指す収入構造

- 寄付
 - ✓拡大路線
 - ✓必要な事業に柔軟に活用する
- 事業収入
 - ✓現状維持
 - ✓自己資金を補完的に補うものとして、効率的な収益獲得を目指す
- 助成金
 - ✓依存し過ぎず、適材適所に活用する

助成金WAMの成果

- 増えるニーズに対応するだけの寄付が十分でない時期に大きな資金源となり、ニーズに応えることができた
- 継続的な支援をいただけたことで、すぐには結果がでない一般寄付拡大に向けて地道な取り組みを続けることができた
- その結果、一般寄付の割合が増え、WAMだけに頼らない収入バランスに移行することができつつある

資金調達に向けた取り組み

なぜ寄付が増えたのか？

- 助成金を「取る」から寄付を「いただく」マインドへ変えるための社内営業&助成金も「いただく」マインドへ
- ニーズを理解してもらうための地道な発信（認知から寄付へ）
- 関心を持っていたただけた方の声を聞き続ける
- やるべきことをきちんとやる（P D C A）

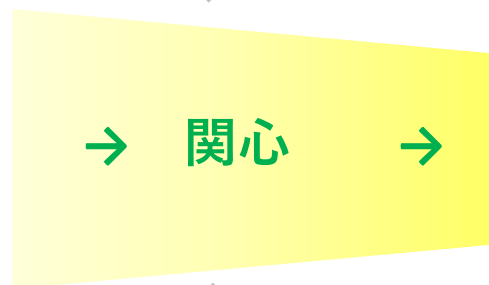
資金調達への取り組み

- ウェブ発信の拡大



認知

→ 関心 →



- マスメディア
- インフルエンサー活用
- SNS（広告含む）

- ウェブ改定
- ウェブ「特集記事」の強化



検索 → 行動（メルマガ・FB） → シェア



- 支援者サービス（既存維持・拡大）
- ボランティアとの資金調達

メディア別目的

メディア	目的	認知or 資金	特徴	リーチ数
JAR メルマガ	よき理解者 & 寄付者を作る	資金 認知	いざという時に頼りになる・意識高い系？	1万
JAR Facebook	難民をウエルカムできる社会の土壌開拓を作る	認知	外野で盛り上げる・ムードメーカー/アライ	1.3万
JAR ウェブ	難民を取り巻く課題と取り組みを深く伝える	認知 資金	関心の入り口に立っている	24万uu/年
マスコミ	難民を支え、難民を受け入れられる社会を作る	認知	関心を刺激された	

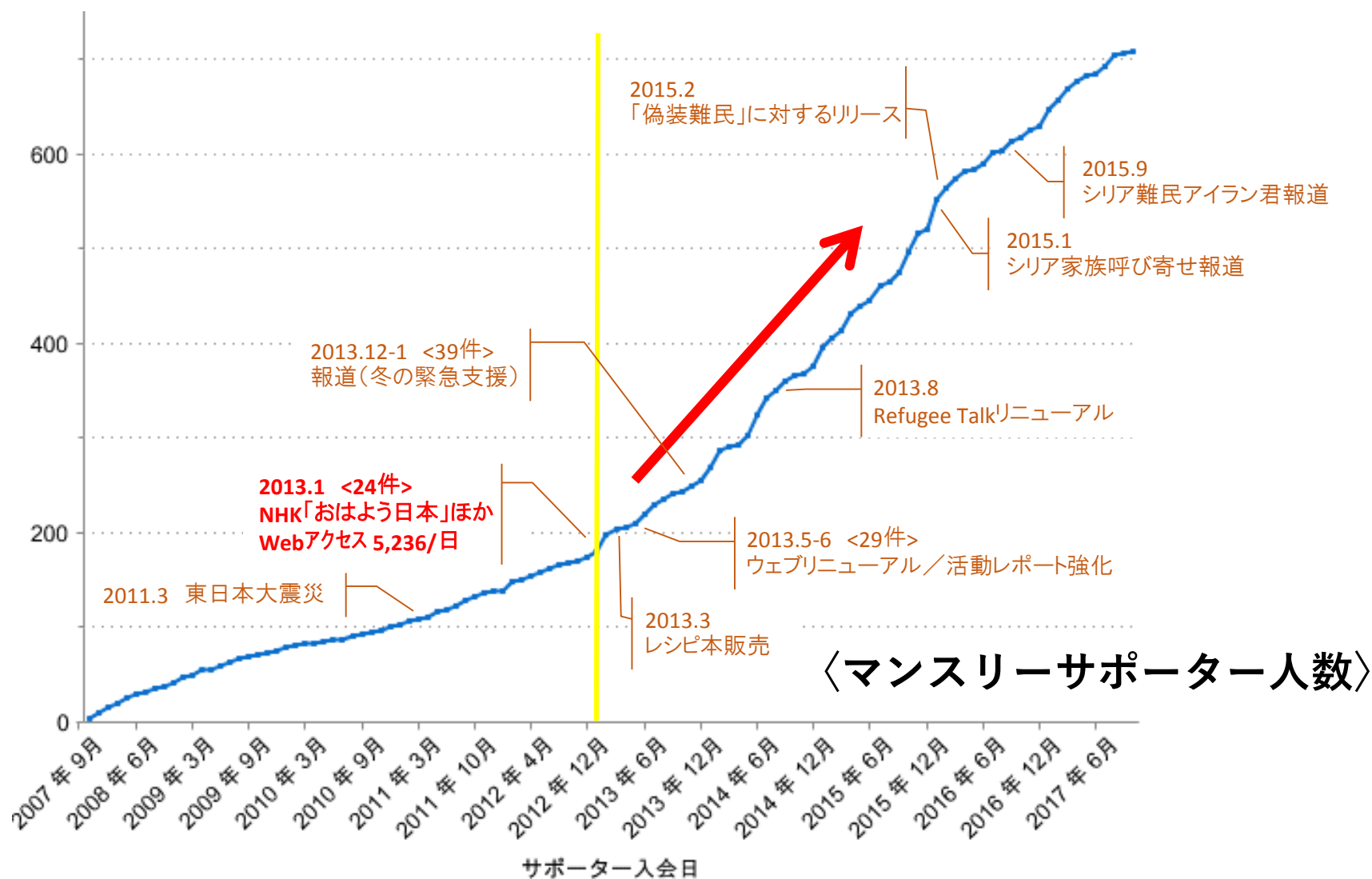
近

JARとの距離

遠



支援の限界（＝ニーズ）を発信した ことがきっかけで寄付増加へ



価値ある内容の発信を通じて
寄付につなげる＝コンテンツマーケティング

- シリア難民の事例

<https://www.refugee.or.jp/jar/report/2015/09/01-0000.shtml>

- ドイツ難民受け入れの事例

<https://www.refugee.or.jp/jar/report/2016/12/02-0000.shtml>

- ロヒンギヤ難民の事例

<https://www.refugee.or.jp/jar/report/2016/06/01-0000.shtml>



特集 シリア難民はいま

400 万人を超えたシリア難民。

欧米諸国、日本の受け入れ状況は？

シリアで紛争が始まって6年。いまだ解
われた人はついに500万人を超えました
る手段がなく、危険な国内に留まってい
出身国別で世界最多となったシリア難民
リア難民への対応状況をお伝えします。

《目次》

1. 人口の半数以上が避難民に。国
2. 欧州など各国の対応－スウェー
3. 日本にもシリア難民がいる？

1. 人口の半数以上が避難民に

< 話題提供 + 外部変化への対応 >

2014夏 ジュディさん記事掲載

2015.1 シリア難民家族再会記事

2015.9 シリア難民男児溺死報道

2015.9 特集記事→随時更新

- webアクセス 12万／9月（通常の6倍）
- メディア掲載 16件／9月
- 「シリア難民」検索1位

難民を受け入れられる 社会を目指して

ドイツ・カナダ・アメリカに学ぶ



難民受け入れは、政治的な決断に大きく左右される一方で、決断には市民社会の理解と協力が不可欠です。日本の難民受け入れの少なさは、政治的な判断であると同時に、世論もそれを後ろ支えています。では、どうすれば、難民を「受け入れられない社会」は「受け入れられる社会」になれるでしょうか。本特集では、昨年だけで100万人の難民・移民が流入したといわれるドイツ、短期間で2万5,000人のシリア難民受け入れを成し遂げたカナダ、難民政策の転換が懸念されるアメリカの事例を通して、市民社会に必要な姿勢を考えます。

《目次》

1. ドイツはなぜ難民を受け入れるのか？政治的リ
2. カナダの民間難民受け入れ（プライベートスポン
3. アメリカと日本で難民を包摂する精神を養う

1. ドイツはなぜ難民を受け入れるのか？

難民・移民の流入が2015年だけで100万人に達したと言われるシリアから多くの難民を受け入れた経験があるとはいえ、信以上ではないはずです。なぜ、ドイツはそれでも難民受け入れの意志を貫くのか、その歴史的背景や政治的リーダーシップを支える市民社会について、研究者の久保山亮氏に聞き

<潜在ニーズへ対応>

2016.8 ドイツ事例記事掲載

- 平均滞在時間 7分
- 継続的に記事ランキング上位



上智大学・根本敬教授に聞くロヒンギャ問題



- ＜コンテンツの再活用＞
- 2016.6 専門家解説記事掲載
- 平均滞在時間 10分
 - 現在記事ランキング1位

ミャンマー（ビルマ）のラカイン州に暮らす少数民族ロヒンギャの状況が深刻化し、10日余りで約12万5,000人が隣国バングラデシュに逃れ、難民となる。アウンサン・スーチー氏国家顧問兼外相に対し、世界から圧力が高まっている。

事例：引越し寄付 1300万円達成 2017.6-8

ご支援のお願い

安心できる空間でよりよい支援を届けたい。

難民が安心できる 空間づくり

目標:800万円

JARに訪れる年間約700人の難民の方々が安心して過ごせる事務所へ
移転実現に必要な資金のご寄付を募っています

- 安心して話せる音が漏れない相談室
- きちんと食事ができる場所
- 仮眠、お折り、授乳ができる部屋
- リラックスできる待合室
- ボランティアが活動できるスペース …など



目標：8,000,000円

現在：13,012,605円 (162%)

支援者数：384人

f シェア 1,400

ツイート

認定NPO法人難民支援協会（JAR）は、日本に逃れてきた難民が新たな土地で安心して暮らせるように支え、ともに生きられる社会の実現に取り組んでいる団体です。

ありがとうございました。

田中志穂

tanaka@refugee.or.jp

